

## 第4学年 国語科指導案

日 時 平成16年10月14日(木) 5校時

指導学級 4年2組 男子16名 女子16名 計32名

指導者 田村 芳

- 1 単元名 大事なことを落さずに話し、メモをとりながら聞こう  
教材名 「電話で約束」 (光村図書「国語4年 下」)

2 単元について

本単元の主たる指導事項は、「伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」「話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。」である。本教材「電話で約束」では「伝え手」「聞き手」が互いに電話で用件を伝え合う活動を設定する。その中で「伝え手」には「自分の考えが分かるように筋道を立てる」ここでは要件が伝わるように、話す順序や話し方を考え工夫をすることや、「相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと」つまり相手が聞き取りやすい速さや間で話すこと、相手に応じて丁寧な言葉で話すことを身に付けさせたい。また「聞き手」には、「話の中心に気を付けて聞く」つまり正確に聞き取るためにメモや聞き返しをする力、聞き取ったことを繰り返し話して確認する力を身に付けさせたい。遊びの約束ひとつにも電話を使う子供たちにとって、本教材は身近であり、学習したことを今後の生活に生かす機会も多いと思われる。

児童は、3年下「道あん内をしよう」で相手にわかるよう順序よく話すこと、大事なことに気を付けて聞くことを学習した。4年上「無人島でくらすとしたら」では、理由や立場をはっきりさせて意見を話したり、互いの意見を比べてよりよい意見を選ぶという話し合いの基本を学習した。また「話すこと・聞くこと」の学習の一つとして、3年生からスピーチを続けている。こうした中で、相手に伝わるように理由をはっきりさせて話したり、伝えたいことを選び内容を考えてスピーチする力が付いてきた。しかし、まだメモをもとにスピーチするのに精一杯で、聞き手に伝わるような話し方の工夫ができる児童は少ない。また、相手が何を伝えたいかを考えながら聞いたり、最後まで正確に聞いたりする力が、どの児童にも充分ついているとは言えない。

どちらかという話すことに中心をおいてきたこれまでの学習に対し、本単元では「聞くこと」に重点を置く。相手の話を正確に聞き取ること、聞き取るうとする態度が「伝え手」を育て、活動が高まること、そして自分もよりよい伝え方をしようという思いや力につながっていくことを理解させたい。児童が意欲的に活動し、話したり聞いたりする力の基礎・基本の定着を図るために、以下の事に留意して活動を進めたい。

- 二人組や三人組、五人組などのグループを作り、目的に応じた活動を組む。その際、良いメモの取り方や聞き方を明らかにし、児童が意識して活動を行うことができるようにする。
- メモを取る練習や電話で伝え合う練習、伝言ゲームを行う際、「伝え手」「聞き手」の1対1を作り、相手の用件を何とか聞き取るうという目的意識を強く持つことができるようにする。
- 「伝え手」を先生など身近な大人に設定することで、相手を意識した言葉遣いの練習ができるようにする。  
モデルを活用し、児童が電話で正しく伝え合うために「伝え手」「聞き手」に大切なことを考えたり、活動の仕方を理解したりできるようにする。
- 用件がうまく伝わらなかったモデルを提示し、正確に伝え合うために「伝え手」「聞き手」それぞれ何が大事なのかを考えられるようにする。
- グループ活動をする前にモデルを提示し、活動の仕方や相互評価の方法を理解できるようにする。  
児童が話し方や聞き方を振り返るために、次のような工夫を行う。
- 本時の評価の観点を板書や学習シートに示し、児童が意識して活動できるようにする。
- 視聴覚機器を使い、自分たちの話し方や聞き方を客観的に振り返ることができるようにする。
- グループで電話で伝え合う練習をする際、順番に「評価者」となって友だちの聞き方について相互評価をさせる。自分の「聞き方」が本時の目標に対してどうだったか、すぐ評価してもらい、次への意欲につなげたい。

### 3 単元の目標

〔関心・意欲・態度〕

相手に必要な事柄を考え、分かりやすく話そうとしている。  
メモを取りながら、相手の話を聞き取ろうとしている。

〔話す・聞く能力〕

自分に必要な事柄に気付いてメモを取り、その内容を確認しながら正確に聞き取ることができる。

目的や内容に即して伝えるべき事柄を考え、相手に分かりやすく話すことができる。

〔言語の能力〕

その場の状況に応じた適切な音量や速さ、言葉遣いで話すことができる。

### 4 単元指導構想表（4時間）

| 段階  | 時       | つきたい力(既新)<br>(話す・聞くの基礎基本)                             | 学習活動   | 教師の支援  |
|-----|---------|---|--|--|
| 第1次 | 1       | 用件が伝わるように話の中心をはっきり決めて話す。                              | 電話で内容を正しく伝えるために、「伝え手」「聞き手」に大事なことを話し合う。<br>・モデルを聞き、なぜ伝わらなかったか考える。<br>・必要な事柄を入れて、用件を伝えるためのメモを作る。どんな順で話すとより伝わるか考え、二人組で練習をする。          | ・必要な事柄(いつ、どこで、誰と、何を、どのように)に気づくよう、用件が伝わらなかったモデルを提示する。<br>・必要な事柄は目的によって変わることが理解できるよう、メモを作る活動の際に目的の違う用件を提示する。                   |
| 第2次 | 1       | 要点等をメモに取りながら聞く。                                       | 良いメモの取り方を考え、練習する。<br>・CDを聞いてメモを取る。<br>・メモを比べて正確に聞き取るために良い取り方を考える。<br>・二人組で、メモを取る練習をする。   | ・要点を箇条書きにしたメモと、文で書いたメモを提示し比べ、正確に速く聞き取るためにどんなメモがよいか気付くことができるようにする。<br>・教師対全員や1対1など形を変えながら練習場面を多く設定する。                         |
|     | 本時<br>1 | 要点等をメモに取り確かめながら正確に聞き取る。<br>相手や目的に応じて適切な音量や速さ、言葉遣いで話す。 | 日常の色々な場面を想定し、電話で伝え合う練習をする。<br>・モデルを見て、活動のしかたを理解する。<br>・グループで「伝え手」「聞き手」「評価者」に分かれて練習をする。<br>・相手に応じた丁寧な言葉遣いで練習をする。<br>・本時の活動について振り返る。 | ・活動や相互評価の仕方が理解できるようモデルを提示する。<br>・本時の評価の観点を板書や学習シートに示し、児童が意識して活動できるようにする。<br>・2回目の活動を大人からの電話にすることで、相手に応じた丁寧な言葉遣いで練習ができるようにする。 |
| 第3次 | 1       | 要点等をメモに取り確かめながら正確に聞き取る。                               | 電話で伝言ゲームをし、大切なことを落とさず伝え合う練習をする。<br>・5人グループで連絡網のように伝言ゲームを行う。<br><br>・学習のまとめをする。   | ・「落とさずにメモをしたか」「繰り返し確かめたか」が本時の評価であることを押さえる。<br>・様々な用件を用意し繰り返し練習できるようにする。その中で、確かにできたという自信を持たせ、メモをし確かめながら聞くことの良さを理解できるようにしたい。   |

5 本時の指導

(1) 目標

自分に必要な事柄に気づいてメモを取り、その内容を確認しながら正確に聞き取ることができ

(2) 本時の展開

| 段階        | 学習活動  | 教師の支援(・)と評価( )   |
|-----------|---|--|
| 導入<br>3分  | 1 前時の想起をする。<br>2 本時の学習活動を把握する。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             必要なことをメモし、「話し手」に確かめながら聞こう。           </div>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を想起し、上手なメモの取り方(必要なことを短く・速く・正確に、記号や印を工夫して)を確認する。</li> <li>・必要なこと(用件・日時・場所・持ち物など)を確認する。</li> </ul>   |
| 展開<br>39分 | 3 モデルを見て本時の活動の仕方について理解する。<br><br>4 グループごとに電話で伝え合う練習をする。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで役割を交代しながら活動する。</li> <li>・自分たちの伝え合いを振り返り、うまくいったところ、うまくいかなかったところを出し合う。</li> </ul> 5 大人から電話が来た場合の良い「聞き方」についてモデルを見ながら考える。<br><br>6 相手に応じた丁寧な言葉遣いをしながら、電話で伝え合う練習をする。<br><br>7 自分たちの活動を振り返る。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の課題について自己評価をし、感想を書く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝え手」「聞き手」「評価者」に分かれて練習する方法が理解できるようなモデルを提示する。</li> <li>・「短く正確にメモを取る」「聞き取ったことを最後に全部繰り返す」が本時の評価であることを板書で確認する。</li> <li>・「聞き手」を評価者が評価するが、グループ内で協力し合っても良いことを確認する。</li> <li>・適切に相互評価が出来ているか確認すると共に、相づちを打つなどして上手な聞き方をしている児童を取り上げ、2回目の活動が高まるようにする。</li> <li>・大人との話し方はどうあれば良いか気付くように、教師と児童が電話で伝え合うモデルを提示する。</li> </ul> <p>聞き取った内容から、必要な事柄を短くメモに取り、「話し手」に繰り返して確かめることができたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A 必要な事柄をメモし、「話し手」が話しやすいように相づちを打ったり、確かめたりしながら正確に聞き取っている。</p> <p>B 必要な事柄をメモし、それを基に聞き取ったことを正確に繰り返し「話し手」に確かめている。</p> <p>C (支援) 手本になるメモを用意し大事なことをメモできるよう支援する。</p> <p>(観察・学習シート・カセットテープ)</p> </div> |
| 終末<br>3分  | 8 本時の学習をまとめる。<br><br>9 次時の学習について知る。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の結果うまくできたところを認め、本時にまだうまくできなかったことは、次時の活動で高めていくよう励ましたい。</li> <li>・次時は、伝言ゲームを行うことを知らせ、次の学習へ意欲を持つことができるようにする。</li> </ul>   |

( 3 ) 板書計画

|                              |                                    |
|------------------------------|------------------------------------|
| 電話で約束                        | 課題                                 |
| 必要なことをメモに取り、「話し手」に確かめながら聞こう。 | 「聞き手」<br>メモを取る                     |
|                              | 必要なことを<br>速く短く正確に<br>記号や印を工夫       |
| 必要なこと                        | ・用けん<br>・いつ<br>・どこで<br>・持ち物        |
| 必要なことを短く正確にメモすることができた。       | メモを見て、聞いたことを「話し手」にくり返して確かめることができた。 |